

平成 29 年 2 月 13 日

各 位

上 場 会 社 名 株式会社 ぱど
代 表 者 代表取締役社長 倉橋 泰
(コード番号 4833)
問合せ先責任者 専務取締役経営統括本部長 石川 雅夫
(TEL 03-6694-9810)

減損損失（特別損失）の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 29 年 3 月期第 3 四半期の決算会計期間におきまして、当社および当社の連結子会社が下記のとおり減損損失（特別損失）の計上を行うとともに、平成 28 年 11 月 4 日に公表した業績予想値と、本日公表の実績値において差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上の内容

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社および連結子会社である株式会社ぱどデザイン工場、株式会社ぱどラボ、株式会社コムースタイルが保有している事業用固定資産について、継続的な営業損失の計上により減損の兆候が認められたことから、将来の回収可能性を検討した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回ったため、連結で 220 百万円、個別で 180 百万円の減損損失（特別損失）を計上いたします。

2. 業績予想値と実績値の差異について

(1) 平成 29 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1 株当たり当期純利益 |
|-----------------------------|--------------|-----------|-----------|-----------------|-------------|
| 前回発表予想 (A) | 百万円 7,300 | 百万円 40 | 百万円 50 | 百万円 30 | 円 銭 5.46 |
| 今回修正予想 (B) | 7,000 | △370 | △350 | △570 | △103.83 |
| 増減額 (B - A) | △300 | △410 | △400 | △600 | |
| 増減率 (%) | △4.1 | - | - | - | |
| (ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期) | 7,539 | △175 | △179 | 45 | 8.34 |

平成 29 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 | 1 株当たり当期純利益 |
|-----------------------------|-------|------|-------|-------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想 (A) | 6,500 | 0 | △10 | △1.82 |
| 今回修正予想 (B) | 6,200 | △410 | △570 | △103.83 |
| 増減額 (B - A) | △300 | △410 | △560 | |
| 増減率 (%) | △4.6 | - | - | |
| (ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期) | 6,701 | △224 | 217 | 39.56 |

修正の理由

(個別業績予想)

売上計画達成に向け、家庭ポスティング型フリーペーパーの媒体力の充実、新聞購読者減少に伴う折込チラシサービスの収益拡大、求人倍率の高位安定とパートアルバイト領域の恒常的な人手不足に対応するための求人広告事業の拡大等に取り組んでまいりましたが、個人消費が本格回復に至らない中、競合他社との低価格競争及び他業種との顧客獲得競争の激化等の影響が想定以上に大きく、折込チラシサービスの収益拡大のための中規模、大規模顧客からの受注拡大が想定を下回ったこと、及び求人広告の掲載単価の改善が計画よりも遅れていること、並びに、本日開示予定の「資本業務提携、第三者割当による新株式の発行、主要株主、主要株主である筆頭株主及び親会社の異動並びに発行可能株式総数の変更に関する定款の一部変更に関するお知らせ」にかかるアドバイザー費用等（45 百万円）を含んだことなどが影響し、売上高、経常利益ともに前回計画を下回る見込みとなりました。

また、当期純利益につきましては、経常利益の減少及び減損損失（特別損失）の計上により、前回計画を下回る見込みとなりました。

第 4 四半期以降につきましては、業況は第三四半期同様厳しいものと見込んでおりますが、折込チラシ領域については、業績悪化の要因となっている中規模、大規模顧客からの受注拡大施策の遅れを取り戻し、新聞折込チラシから家庭ポスティング型フリーペーパーへ折り込むチラシサービスへの転換を進め、収益の改善を図ってまいります。また、求人領域については、計画は下回っているものの前期実績は上回っており、求人広告事業に対する需要は存在すると判断できるため、引き続き、地元の主婦層をターゲットにした潜在労働力を掘り起こし収益の改善を図ってまいります。

(連結業績予想)

連結業績においては、主に個別業績予想の修正理由及び減損損失（特別損失）の計上により、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに前回予想を下回る見込みとなりました。

※業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上